

## 近世における複合社殿の形式と地域性

田中 剛\* 藤田 勝也\*\*

### Forms and Regional Differences of the Composite Building Type “Fukugosyaden” in the Edo Period

Go TANAKA\* and Masaya FUJITA\*\*

(Received August 20, 2002)

The form at the shrine architecture that Honden was compound with Heiden and Haiden the various forms exists. At such the composite building type, the various compound forms can be seen. It considers what form exists and how it spreads at the composite building type. It classified the composite building type where the list rose into four forms in the compound form. The I type is the form that connects by making a ridge parallel. The II type is the form of which a ridge is connected by providing it between the Honden and Haiden. The III type is the form that connects by making a ridge perpendicular. The IV type is the form that the main shrine and Heiden or Haiden connect with among Tuma. The characteristic of the spread by an area and the rearing period are seen to each form.

**Key Words :** Composite Building Type, Edo Period, Compound Forms, Regional Differences

#### 1. はじめに

神社本殿は、多くの場合独立して建てられている。しかし、なかには幣殿や拝殿と複合した形式も存在する。近世に普及するこうした複合社殿には、屋根形態や接続の仕方等により、様々な形式が存在する。本研究の目的は、複合社殿の多様な形式について考察を行い、その実態を明らかにすることである。

複合社殿に関する研究に、京都市所在の近世複合社殿についての報告がある<sup>1)</sup>。しかし、複合社殿に関して全国的にどのような形式が存在しどのような分布を示したのかを研究したものは管見にみえない。

#### 2. 研究方法

\* 大学院工学研究科環境設計工学専攻

\*\* 建築建設工学科

\* Architecture and Civil Engineering Course, Graduate School of Engineering

\*\* Dept. of Architecture and Civil Engineering

各都道府県の『近世社寺建築緊急調査報告書』にとりあげられた遺構と国指定文化財の近世遺構をもとに、複合社殿形式の神社をリストアップし<sup>2)</sup>、それぞれの特徴を比較する。対象地域は高知県、香川県を除く 45 都道府県で、取り上げた遺構は全 100 件である。これらを複合形式で分類し、建立年代や所在地から普及の仕方を考察する。なお近世の時代区分は前期を万治 3 年(1660)以前、中期を寛文元年(1661)～寛延 3 年(1750)、後期を宝暦元年(1751)～文政 12 年(1829)、末期を天保元年(1830)以降とした。

#### 3. 複合形式について

##### 3.1 複合形式の分類

複合形式を屋根の形状に着目し I～IV の 4 つの類型に分類、整理した(表 1 および図 1～5 参照)。

I 類型<sup>3)</sup>は前殿と後殿が棟を平行にして接続する形式で 9 件の遺構が確認できる(図 1)。

II 類型は本殿と拝殿が別棟を間に設けて接続する形式で、76 件の遺構が確認できる。この形式は本殿が平入の A 型<sup>4)</sup>(図 2)、妻入の B 型<sup>5)</sup>(図 3)に細分

表 1 近世複合社殿一覧

I 類型	II 類型			III 類型	IV 類型
	A 型			B 型	
	a 型	b 型	c 型		
大縣神社(愛知)	吉岡八幡宮(宮城)	成島八幡神社(山形)	高田神社(茨城)	清昨神社(大阪)	空閑稲荷神社(茨城)
六條王神社(京都)	大崎八幡宮(宮城)	相馬中村神社(福島)	八幡宮(京都)	日御碕神社(鳥取)	調神社(埼玉)
石清水八幡宮(京都)	玉前神社(千葉)	夷隅神社(千葉)	大原神社(京都)	久古神社(鳥取)	浅草神社(東京)
伊佐爾波神社(愛媛)	飯香岡八幡宮(千葉)	大杉神社(茨城)			大滝神社(福井)
宇佐神宮末社北辰神社(大分)	八柱神社(茨城)	国王神社(茨城)			安井金毘羅宮(京都)
作原神社(大分)	東照宮(栃木)	松井田八幡宮(群馬)			粟田神社(京都)
宇佐神宮第一殿(大分)	東照宮仮殿(栃木)	氷川女体神社(埼玉)			滝尾神社(京都)
宇佐神宮第二殿(大分)	桐生天満宮(群馬)	箭弓稲荷神社(埼玉)			隅田八幡神社(和歌山)
宇佐神宮第三殿(大分)	妙義神社(群馬)	秩父神社(埼玉)			八幡神社(兵庫)
	三芳野神社(埼玉)	金嶺神社(埼玉)			大神山神社奥宮(鳥取)
	古尾谷八幡神社(埼玉)	八幡神社(埼玉)			大神山神社奥宮末社下山神社(鳥取)
	歌喜院聖天堂(埼玉)	玉敷神社(埼玉)			吉備津神社(岡山)
	御嶽神社(東京)	みか神社(埼玉)			日吉神社(大分)
	薬王院飯縄権現堂(東京)	氷川神社(東京)			榎原神社(宮崎)
	東照宮(東京)	金玉八幡神社(東京)			
	根津神社(東京)	法明寺鬼子母神堂(東京)			
	江島神社中津宮(神奈川)	箱根神社(神奈川)			
	春日神社(神奈川)	叶神社(神奈川)			
	久能山東照宮(静岡)	海南神社(神奈川)			
	小松天満宮(石川)	瀬戸神社(神奈川)			
	三國神社(福井)	鶴岡八幡宮上宮社殿(神奈川)			
	井伊神社(滋賀)	鶴岡八幡宮摂社若宮社殿(神奈川)			
	日吉大社末社東照宮(滋賀)	三島大社(静岡)			
	下御霊神社(京都)	八王子神社(岐阜)			
	北野天満宮(京都)	六所神社(愛知)			
	東照宮(京都)	伊賀八幡宮(愛知)			
	大阪天満宮(大阪)	天孫神社(滋賀)			
	豊明天満宮(大阪)	上宮天満宮(大阪)			
	東照宮(和歌山)	焼火神社(島根)			
	福山八幡宮東の宮(広島)	香椎神社(佐賀)			
	福山八幡宮西の宮(広島)	与止日女神社(佐賀)			
	春日神社(山口)	榎原神社(宮崎)			
	松山神社(愛媛)				
	高良大社(福岡)				
	大原八幡宮(大分)				
	新田神社(鹿児島)				
	鹿児島神宮(鹿児島)				
	霧島神宮(鹿児島)				
	38	32	3		
		73		3	
9		76			14
			100		1

できる。A型は73件、B型3件が確認できた。さらにA型は本殿について入母屋造をa型、流造をb型、切妻造をc型に分類した。a型は38件、b型は32件、c型は3件が確認できる。

III類型<sup>6)</sup>は本殿と拝殿(幣殿)が棟を垂直にして接続する形式で、14件の遺構が確認できる(図4)。

IV類型は本殿が幣殿または拝殿と妻同士で接続する形式で、1件のみ確認できる(図5)。

### 3.2 複合形式の全体的傾向

各形式の数を比較するとII類型が多く複合社殿として一般的な形式である事が分かる。またII類型の中でも、B型やA-c型は少なく、本殿平入の入母屋造または流造が多くを占める。

II類型の多い理由として東照宮の存在がある。II類型は権現造に類似する。権現造は東照宮に用いられた形式で、その祭神からもうかがえるように、幕

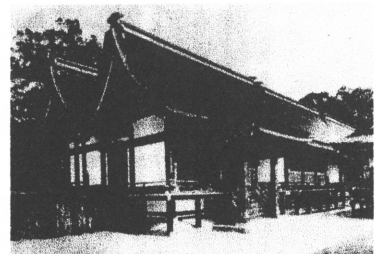
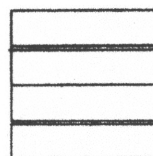


図1 I 類型, 宇佐神宮(大分)

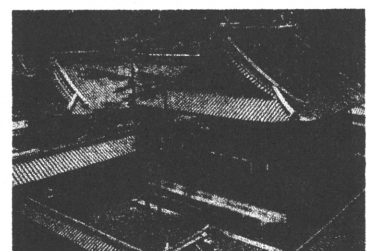
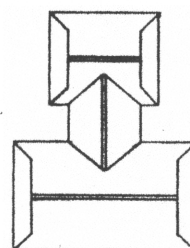


図2 II 類型A型, 東照宮(栃木)

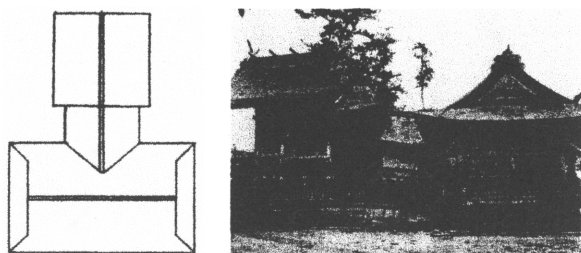


図3 II類型B型, 日御碕神社(鳥取)

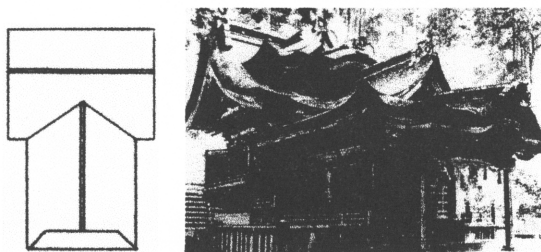


図4 III類型, 大滝神社(福井)

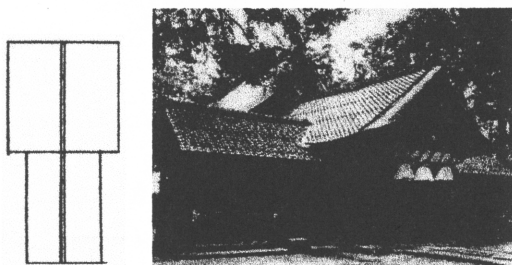


図5 IV類型, 楽楽福神社(鳥取)

府の庇護のもと近世においては大きな影響力を持っていたと思われる。また、複合形式の中でもこの形式は、既存の本殿や拝殿を後に連結することができるため、各社殿の同時建立を前提とせず資金面の負担を大きく軽減したと思われる。II類型はこうした理由から多くの遺構を残したと推測できる。

#### 4. 複合形式と地域分布

各複合形式の所在地を示したのが図6である。複合社殿の造営には地域的偏在がみられる。とくに江戸と京都を中心とする地域、その他に鳥取や大分に集中している。類型別に見ると、I類型は大分に多く、II類型は全国的に広く見られるが、江戸近郊に特に多く分布する。III類型は京都近郊や鳥取、九州など西日本に多い。なお1件のみのIV類型は鳥取にある。以上、II類型は江戸を中心とする地域、I類型、III類型、IV類型は京都近郊や鳥取、大分など西日本に多いことが分かる。ただし、江戸中心のII類型のうちB型は大阪と鳥取のみ確認できる。

複合社殿が江戸と京都を中心とした地域に集中したのは、近世における大都市だったことによるのだろう。神社や寺院の造営資金は、幕府や藩などの有力者による出資あるいは勸化による調達であった。有力者や多くの人口をかかえる都市では、資金調達を行いやすかったことだろう。複合社殿は大規模造営のため、多額の造営資金が必要だったことだろう。

I類型の京都と大分への集中は宇佐神宮と石清水八幡宮の影響が推測される。大分のI類型5件の内4件は宇佐神宮境内にある。

II類型の分布に影響を与えたのは東照宮であろう。東照宮は徳川家康を祀る神社で、江戸周辺への集積には幕府の強い影響が考えられる。また、主に鳥取に集中しているII類型B型やIV型は本殿が妻入のものは大社造に通じる。これらは、鳥取県西部に分布しており、出雲地方の影響を受けた複合社殿である<sup>7)</sup>。

#### 5. 複合形式と建立時期

建立年次順<sup>8)</sup>に整理したのが表2である。I類型は後期以外の全ての時期に、II類型は近世を通じてみられる。III類型は多くは近世後期以降だが、形式としては古くから存在する。IV類型の1件は近世中期である。

次にII類型について見てみると、A-a、A-bはどの時代でも多くの遺構を残す。対するに、A-cおよびB型は中期以降に造営されていることがわかる。

I類型は中世に遡る伝統的な形式で近世においても造られたのだろう。

II類型については近世において流行した形式であることがここにも示されている。その中でA-c型やB型などのバリエーションが生まれたと考えられる。

III類型は古くから存在する形式だが近世に入り一時衰退する。しかし、近世後期以降に再び広まることになる。この形式にはII類型の変種と思われる形式も存在しているため、II類型の普及を背景に造営されたと考えることもできる。

#### 6. 複合形式の普及

各時期の複合社殿の分布を示したのが図7～10である。

前期では、I類型は京都に既に存在する。II類型ではA-a型やA-b型は江戸や京都周辺に多く分布している。III類型は岡山、兵庫、東京に分布して

I 類型			◆
II 類型	A 型	a 型	○
		b 型	●
		c 型	◎
	B 型		▲
III 類型			▼
IV 類型			▽

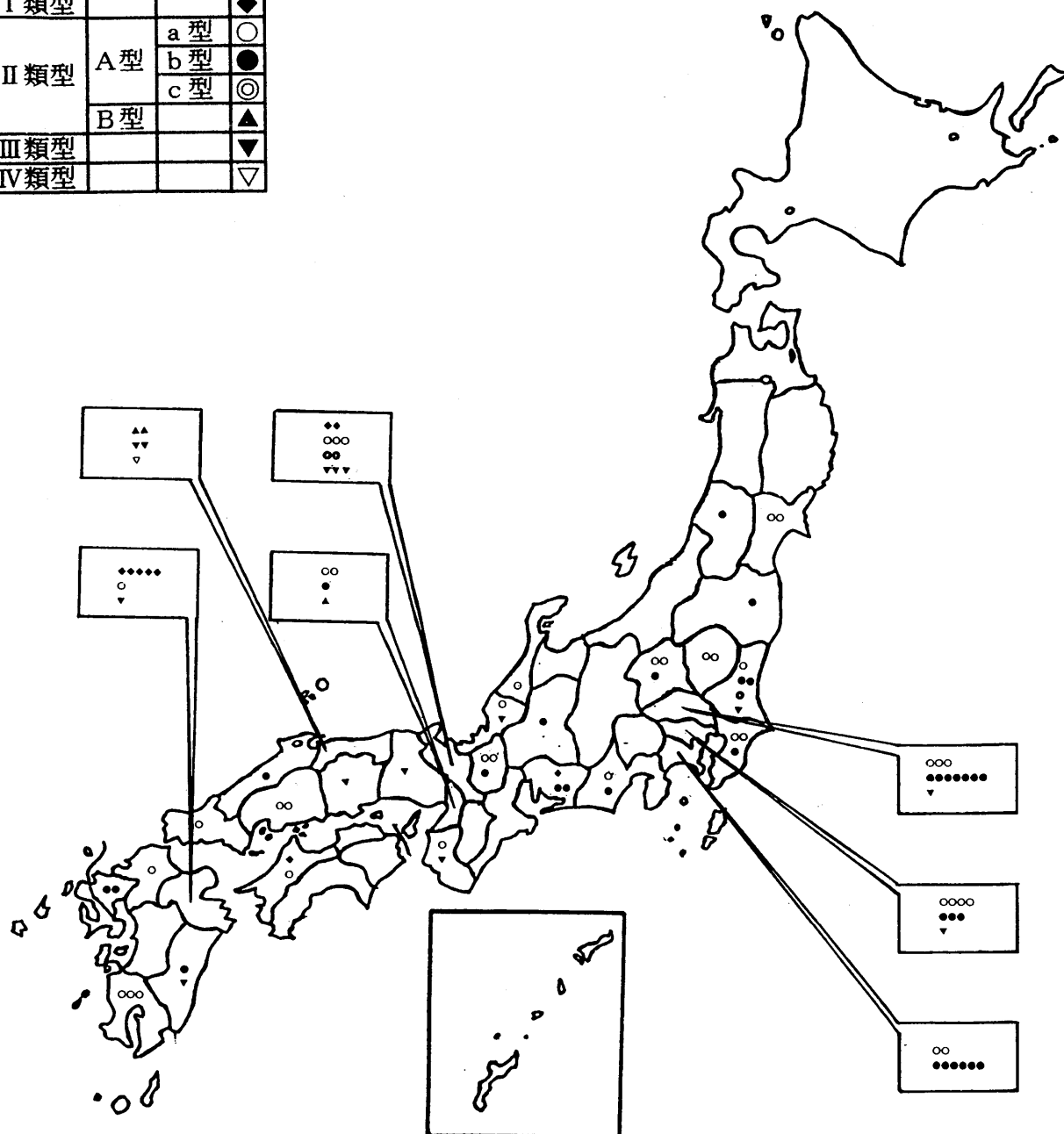


図6 分布図

表2 近世複合社殿の建立年次一覧

建立年次	I	II-A-a	II-A-b	II-A-c	II-B	III	IV
1425						吉備神社(岡山)	
1485						八幡神社(兵庫)	
1497		大崎八幡宮(宮城)					
1617		北野天満宮(京都)					
1621		久能山東照宮(静岡)					
1624		東照宮(和歌山)	福岡八幡宮若宮社殿(神奈川)				
1624~1644		三芳野神社(埼玉)	松井田八幡宮(群馬)				
1628		東照宮(京都)					
1634	前期	石清水八幡宮(京都)	日吉大社末社東照宮(滋賀)				
1636		東照宮(栃木)	六所神社(愛知)				
1639		東照宮飯殿(栃木)	伊賀八幡神社(愛知)				
1643			相馬中村神社(福島)				
1649			上宮天満宮(大阪)			護国神社(東京)	
1700前期		東照宮(東京)	成島八幡神社(山形)				
1651		小松天満宮(石川)					
1654		高良大社(福岡)					
1657			氷川女体神社(埼玉)				
1661	大縣神社(愛知)		権根神社(神奈川)				
1667	伊佐賀波神社(愛媛)		八王子神社(岐阜)				
1676			秩父神社(埼玉)				
1682頃							
1683		福山八幡宮東の宮(広島)					
1687		福山八幡宮西の宮(広島)					
1688以降		玉前神社(千葉)					
1689		江島神社中津宮(神奈川)	金王八幡神社(東京)				
1691		飯香八幡宮(千葉)					
1700			法明寺鬼子母神堂(東京)				
1800	中期		夷隅神社(千葉)				
1702		六所主神社(京都)					
1706			権根神社(東京)				
1710			香島八幡神社(宮城)				
1715			福島神社(鹿児島)				
1722			古尾谷八幡神社(埼玉)				
1730			氷川神社(東京)				
1732			焼火神社(島根)				
1742					護国神社(大阪)		
1744					久吉神社(鳥取)		
1800前期		堂明治天満宮(大阪)	八幡神社(埼玉)				
1745			香椎神社(佐賀)				
1800中期				高田神社(茨城)		安井金尾神社(京都)	湊本福神社(鳥取)
江戸中期			か神社(埼玉)				
江戸時代中期以降							
1753		東王院斎庭権現堂(東京)					
1756		妙善神社(群馬)					
1760		鹿児島神社(鹿児島)					
1774		敬喜院聖天宮(埼玉)					
1775		春日神社(山口)					
1783		八柱神社(茨城)				日吉神社(大分)	
1793		下御霊神社(京都)					
1794		大原八幡宮(大分)					
1796				大原神社(京都)			
1798	後期		海南神社(神奈川)			権原神社振社役神社(宮崎)	
1799		潮生天満宮(群馬)	権原神社(宮崎)				
1800			瀬戸神社(神奈川)				
1805						大神山神社奥宮(鳥取)	
1813			大杉神社(茨城)			大神山神社奥宮末社下山神社(鳥取)	
1816			孝正日女神社(佐賀)				
1817			玉敷神社(埼玉)				
1823			国王神社(茨城)				
1828			福岡八幡宮上宮社殿(神奈川)			栗田神社(京都)	
1831						栗田八幡宮(和歌山)	
1839		御蔵神社(東京)					
1842		三國神社(福井)				大蔵神社(福井)	
1843頃			叶神社(神奈川)			龍尾神社(京都)	
1845			箭弓稲荷神社(埼玉)				
1845		大阪天満宮(大阪)					
1850		井伊神社(佐賀)	金嶺神社(埼玉)				
1852				八幡宮(京都)			
1800中期		新田神社(鹿児島)	天孫神社(佐賀)				
1853					日御碕神社(鳥取)		
1854		春日神社(神奈川)					
1855		作原神社(大分)					
1855~1861		宇佐神社第一殿(大分)					
		宇佐神社第二殿(大分)					
		宇佐神社第三殿(大分)					
1859						龍神社(埼玉)	
1860						笠間稲荷神社(茨城)	
1860~1869			三島大社(静岡)				
1864		宇佐神社末社北園神社(大分)					
1865		松山神社(愛媛)					

いる。

中期では、I類型は京都、愛知、愛媛に1件づつ

みられる。II類型はA-a型、A-b型がともに東京周辺への集中を見せ、中国、九州地方でもみられ

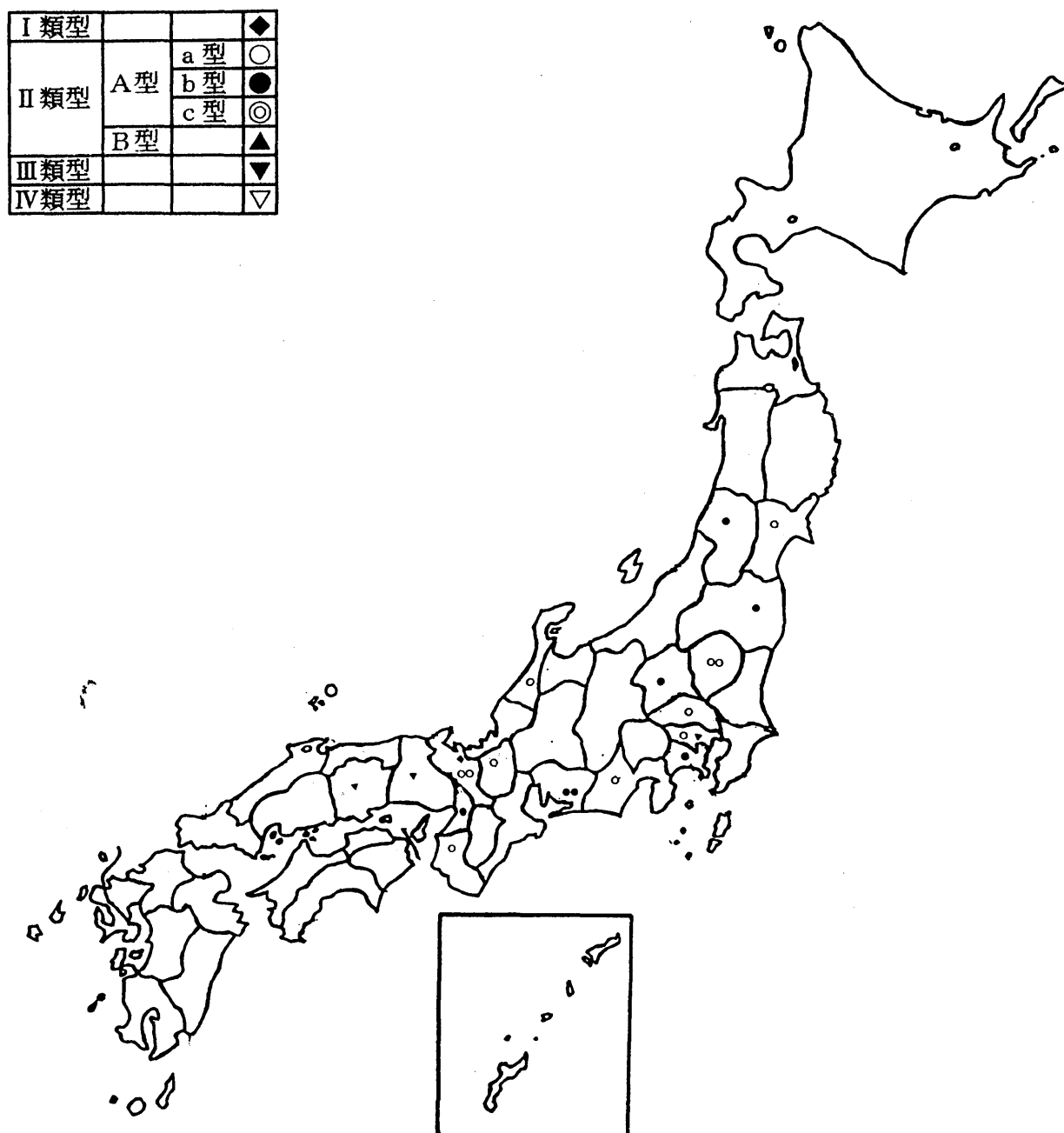


図7 近世前期における複合社殿の分布図

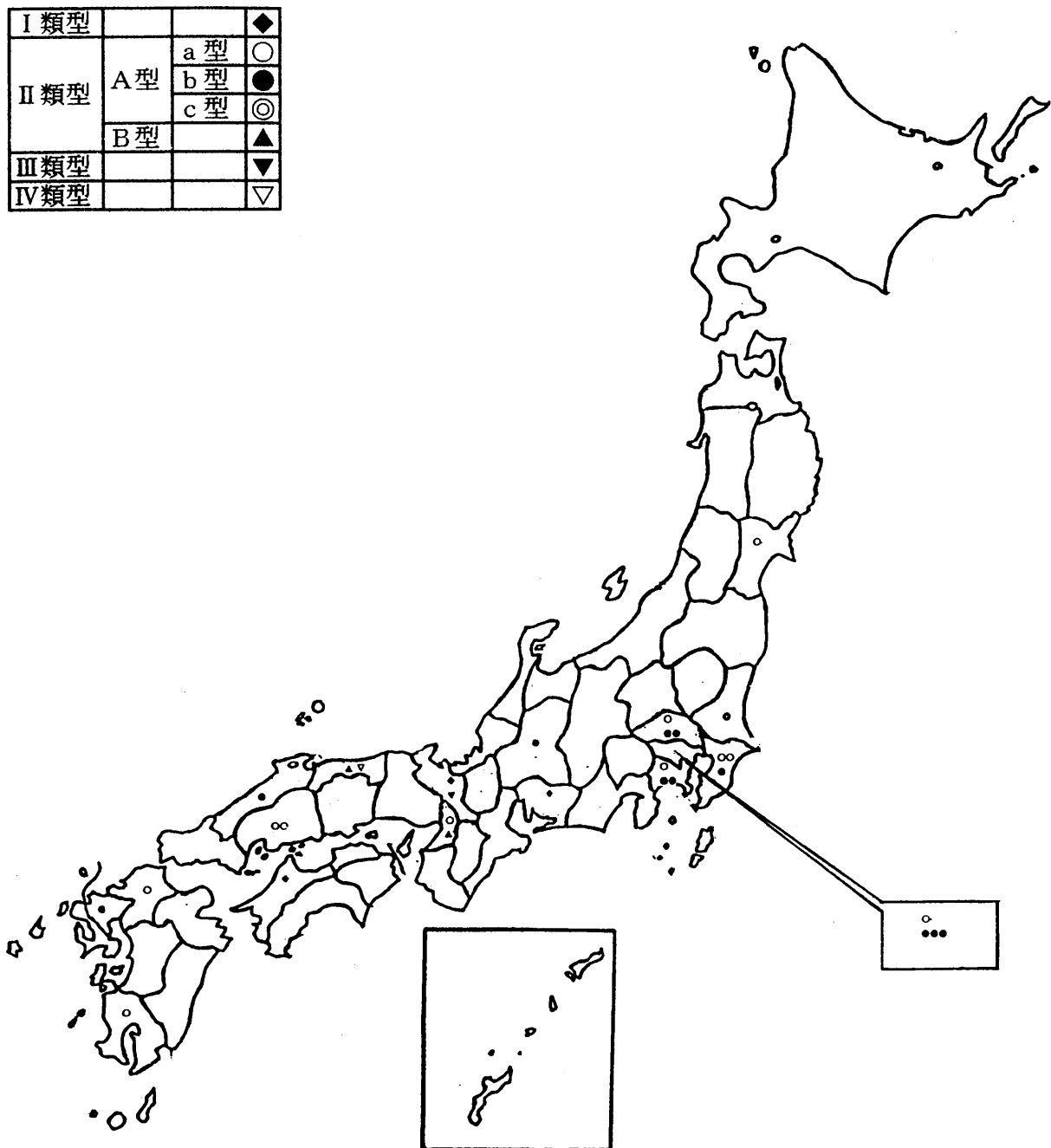


図8 近世中期における複合社殿の分布図

I 類型			◆
II 類型	A 型	a 型	○
		b 型	●
		c 型	◎
	B 型		▲
III 類型			▼
IV 類型			▽

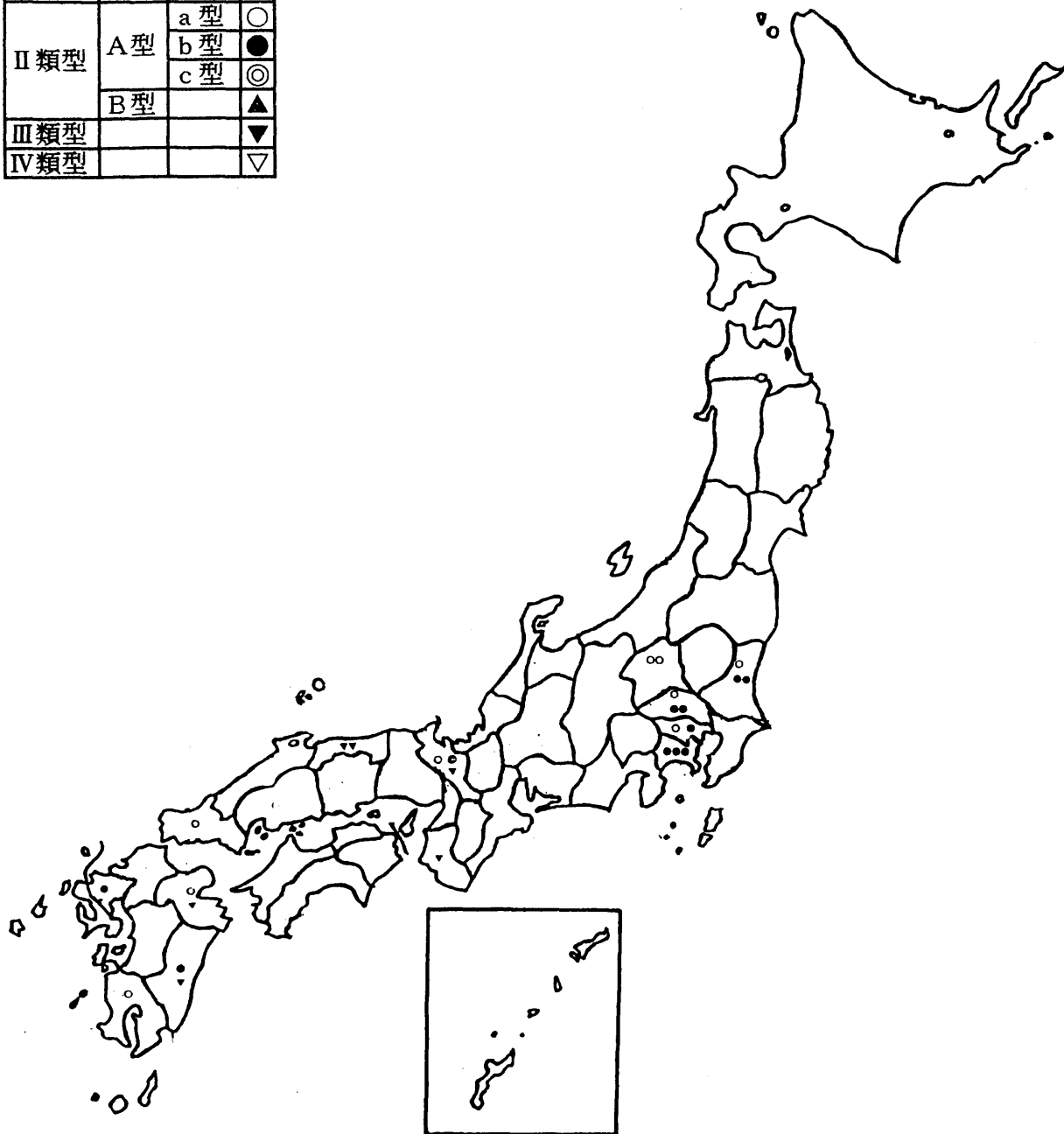


図9 近世後期における複合社殿の分布図



I 類型			◆
II 類型	A 型	a 型	○
		b 型	●
		c 型	◎
	B 型		▲
III 類型			▼
IV 類型			▽

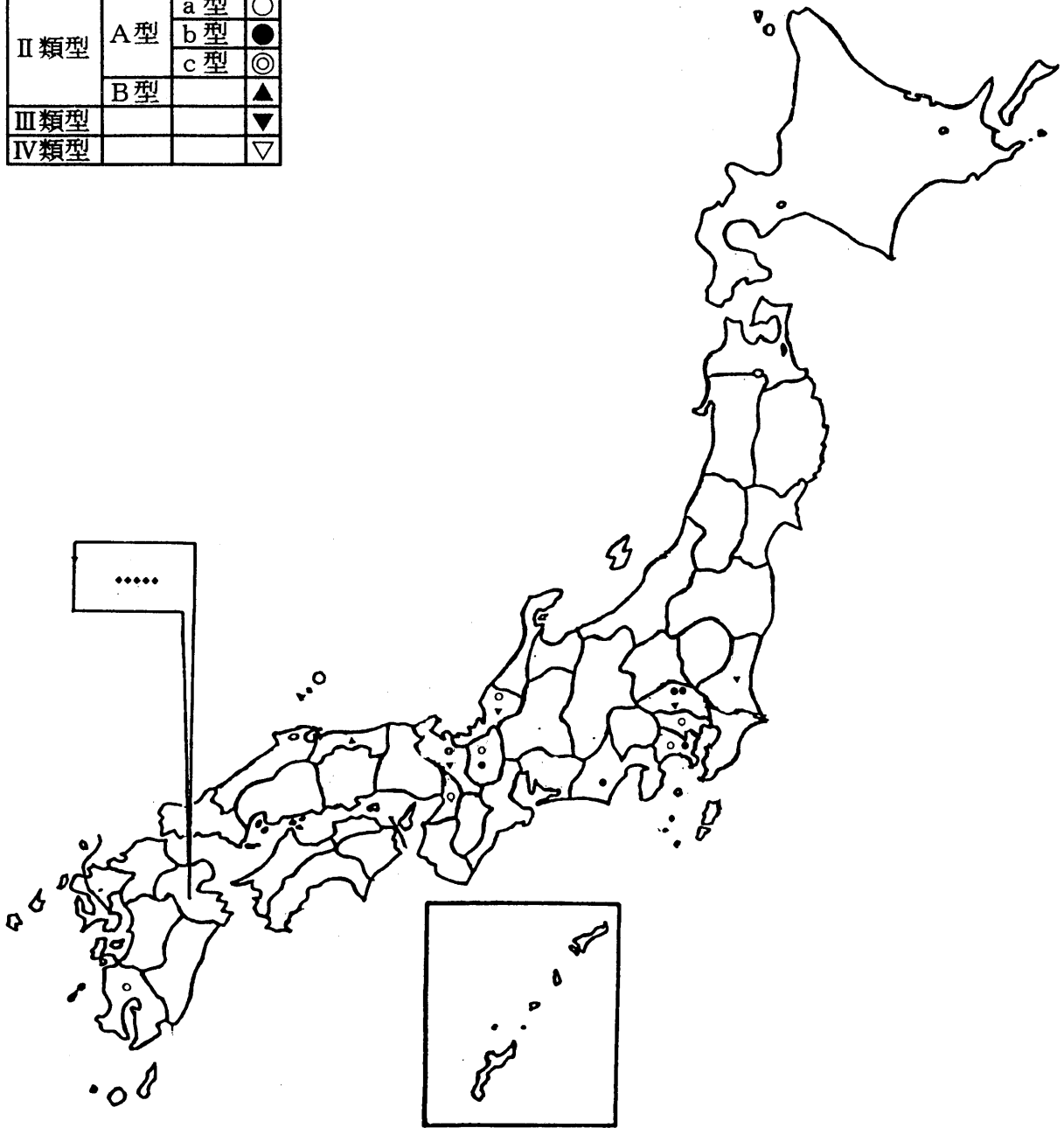


図 10 近世末期における複合社殿の分布図

るようになる。A - c型は茨城にみられ、B型は鳥取と大阪でみられる。Ⅲ類型は京都に1件みられる。

後期では、Ⅱ類型A - a型、A - b型の東京周辺の集中は中期に続いてみられ、九州地方でもみられる。A - c型は京都に1件みられる。Ⅲ類型は京都や大阪、鳥取、大分、宮崎と広く確認できる。

末期では、Ⅰ類型が大分県に集中。Ⅱ類型はA - a型、A - b型がともに東京や京都周辺に多くみられ、A - c型は京都に1件、B型は鳥取に1件みられる。Ⅲ類型は埼玉、茨城と江戸周辺でもみられる。

以上のことから各形式がどのように普及をするかを考察する。

Ⅰ類型は前記したとおり分布域は限定されるが後期以外の時期に造営されている。

Ⅱ類型はA - a型、A - b型は全時期を通じて江戸周辺に集中して造営される。中期以降には中国、九州のような地方にも普及し、B型やA - c型のような形式が造営される。Ⅲ類型は後期において西日本各地に広がりを見せ、末期には江戸周辺でもみられるようになる。

Ⅰ類型は、そのもとになる形式を八幡造と考えると、古くから存在する形式であるが、近世においては広く普及することはなく伝統を守るかたちで作り続けられたようだ。Ⅱ類型の江戸への集中は東照宮のⅡ類型への影響と共に幕府の影響を見ることが出来る。各地方への分布は、各地の東照宮の造営により、地方へこの形式を伝えた結果によると思われる。こうした普及のなかで、様々な工匠たちに手を加えられ、地方の形式を取り入れながら多くのバリエーションを生むに至ったと思われる。Ⅲ類型の中にはⅡ類型の変形と思われる形式も存在することから、Ⅱ類型は社殿の複合化に強く影響を与えたと思われる。

## 7. まとめ

複合社殿の様々な形式を分類し、考察する事により各形式の性格をみることができる。

Ⅰ類型は中世からの伝統を近世においても継承し今に伝える形式であった。

Ⅱ類型は近世において最も一般的な形式で、中でもA型は全国的に広く分布し、多くの遺構を残す。この形式は、Ⅱ類型B型やⅢ類型、Ⅳタイプの普及にも影響を与えることになる。

Ⅲ類型は中世からその形式を伝え、近世後期以降に一般的になる形式であった。

Ⅳ類型は特異な形式で、1件の遺構では判断しがたいが、複合社殿が普及する過程で生まれた形式で

はないだろうか。

本稿では建立年代と所在地に焦点を当て考慮した。祭神や工匠、願主、規模などからの考察を今後の課題としたい。

## 註

- 1) 参考文献[56].
- 2) 参考文献[1]～[48]をもとに抽出した。
- 3) 模式図は切妻造を並べた八幡造を表した。この形式は宇佐神宮(大分)に用いられている。石清水八幡宮(京都)や伊佐爾波神社では外殿(前殿)が流造の八幡造である。他には入母屋造を並べたものや本殿切妻造、拝殿入母屋造のものもある。八幡造とその他の形式の違いは八幡造は神の領域である本殿を2棟で構成していることである。
- 4) Ⅱ類型A型はバリエーションが豊富である。模式図は本殿入母屋造平入、拝殿両下造妻入、拝殿入母屋造平入の形式を表したが、本殿が平入で拝殿と棟を挟んで接続した形式は全てこの形式とした。バリエーションとしては本殿が流造のもの、本殿が切妻造のもの。小松天満宮(石川)では本殿と拝殿の間を幣殿と石の間の2つの間でつないでいるし、焼神社(島根)では段差のある本殿と拝殿を通殿でつないでいる。新田神社(鹿児島)では拝殿が入母屋の妻入である。このように本殿と接続している棟や拝殿にも多くのバリエーションがあるが本殿を中心に分類を行った。
- 5) Ⅱ類型B型は本殿に春日造と大社造の形式がある。久古神社(鳥取)と日御碕神社(鳥取)の2件が大社造である。
- 6) 模式図は流造の本殿に入母屋造の棟が直接妻入で接続している。本殿が入母屋造のものもある。入母屋の棟の部分は切妻造の場合もある。また、この棟の部分は拝殿、幣殿、拝殿と幣殿の場合がある。この他に、模式図の上下が逆になった形式もある。笠間稻荷神社(茨城)は入母屋造の拝殿に背面入母屋の本殿が接続した形式、調神社のように本殿・幣殿が一体化し拝殿に接続している。このようにバリエーションが多いが、棟を垂直にして接続するものとして1つの形式とした。
- 7) 参考文献[31]の6-9頁を参照。鳥取県における本殿・幣殿・拝殿を一連に造る形式は出雲の大社造系本殿に見られる形式で、鳥取県西部地区における出雲の影響を顕著に示している。
- 8) 各社殿が同時建立でないものは、最も新しい時

期に造営された社殿の年代を建立時期とした。

#### 参考文献

- [1] 北海道教育委員会編『北海道の近世社寺建築』(1989)
- [2] 青森県教育委員会編『青森県の近世社寺』(1979)
- [3] 秋田県教育委員会編『秋田県の近世社寺建築』(1989)
- [4] 岩手県教育委員会編『岩手県の近世社寺建築』(1989)
- [5] 東北大学工学部建築学科建築史及び意匠研究室編『宮城県の近世社寺建築』宮城県教育委員会(1983)
- [6] 山形県教育委員会編『山形県の近世社寺建築』(1984)
- [7] 福島県教育委員会編『福島県の近世社寺建築』(1981)
- [8] 千葉県編『千葉県の近世社寺建築』千葉県教育庁(1978)
- [9] 茨城県編『茨城県の近世社寺建築』茨城県教育委員会(1982)
- [10] 栃木県教育委員会文化課編『近世社寺建築緊急調査報告書』栃木県教育委員会(1978)
- [11] 群馬県教育委員会事務局管理部文化財保護課編『群馬県近世社寺建築緊急調査報告書』群馬県教育委員会(1979)
- [12] 埼玉県教育委員会編『埼玉の近世社寺建築』埼玉県教育委員会(1984)
- [13] 東京都教育庁社会教育部文化課編『東京都の近世社寺建築』(1989)
- [14] 神奈川県教育庁生涯学習部編『神奈川県近世社寺建築緊急調査報告書・本文篇、写真篇』(1993)
- [15] 新潟県教育委員会編『新潟県の近世社寺建築』(1985)
- [16] 長野県教育委員会編『長野県の近世社寺建築』長野県文化財保護協会(1981)
- [17] 山梨県編『山梨県の近世社寺建築』山梨県教育委員会(1983)
- [18] 静岡県教育委員会文化課編『静岡県の近世社寺建築』静岡県教育委員会(1979)
- [19] 愛知県教育委員会文化財課編『愛知県の近世社寺建築』(1980)
- [20] 富山県教育委員会編『富山県の近世社寺建築』(1981)
- [21] 岐阜県教育委員会文化課編『岐阜県の近世社寺建築』岐阜県教育委員会(1980)
- [22] 石川県教育委員会文化財保護課・石川県近世社寺建築緊急調査委員会編『石川県の近世社寺建築』石川県教育委員会(1979)
- [23] 福井県教育委員会編『近世社寺建築緊急調査報告書』福井県教育委員会(1981)
- [24] 京都府教育庁文化財保護課編『京都府の近世社寺建築』京都府教育委員会(1983)
- [25] 滋賀県編『滋賀県の近世社寺建築』滋賀県教育委員会文化財保護課(1986)
- [26] 大阪府教育委員会文化財保護課編『大阪府の近世社寺建築』(1987)
- [27] 奈良国立文化財研究所編『和歌山県の近世社寺建築』和歌山県教育庁文化財課(1992)
- [28] 奈良国立文化財研究所編『奈良県の近世社寺建築』奈良県教育委員会文化財保護課(1987)
- [29] 三重県教育委員会編『三重の近世社寺建築』(1986)
- [30] 兵庫県教育委員会編『兵庫県の近世社寺建築』(1980)
- [31] 鳥取県教育委員会文化課編『鳥取県の近世社寺建築』鳥取県教育委員会(1987)
- [32] 岡山県教育委員会編『岡山県の近世社寺建築』岡山県文化財保護協会(1978)
- [33] 島根県教育委員会編『島根県近世社寺建築緊急調査報告書』(1980)
- [34] 広島県教育委員会編『広島県の近世社寺建築』広島県文化財協会(1982)
- [35] 山口教育委員会編『山口県の近世社寺建築』(1980)
- [36] 愛媛県教育委員会編『愛媛県の近世社寺建築』(1990)
- [37] 徳島県教育委員会編『徳島県の近世社寺建築』(1990)
- [38] 福岡県教育委員会編『福岡県の近世社寺建築』(1984)
- [39] 佐賀県教育委員会編『佐賀県の近世社寺建築』(1985)
- [40] 長崎県教育委員会編『長崎県の近世社寺建築』(1986)
- [41] 大分県教育庁管理部文化課編『大分県の近世社寺建築』大分県教育委員会(1987)
- [42] 熊本県教育委員会編『熊本県の近世社寺建築』(1986)
- [43] 宮崎県教育庁文化課編『宮崎県の近世社寺建築』宮崎県教育委員会(1981)
- [44] 鹿児島県教育委員会文化課編『鹿児島県の近世社寺建築』鹿児島県教育委員会(1988)
- [45] 鹿児島県教育庁文化課編『鹿児島県の近世社寺建築(離島編)』鹿児島県教育委員会(1990)
- [46] 沖縄県教育庁文化課・琉球大学工学部建設工学科福島研究室編『沖縄県の信仰に関する建造物』ロ

マン書房本店(1992)

[47]茨城県教育委員会編『茨城の文化財』(2001)

[48]文化庁監修『国宝・重要文化財大全 11 建造物  
上巻』毎日新聞社(1998)

[49]文化庁監修『文化財講座 日本の建築 4 近世  
I』第一法規出版(1976)

[50]大河直躬『東照宮』鹿島出版会(1970)

[51]文化庁歴史的建造物調査研究会編『建物の見  
方・しらべ方 江戸時代の寺院と神社』ぎょうせい  
(1998)

[52]『建築大辞典第2版<普及版>』彰国社(1998)

[55]皿澤弘治『近世における複合社殿の成立につい  
て』平成12年度福井大学卒業論文

[56]藤沢彰, 藤田勝也「京都市近世社寺建築に関する  
研究(2)ー複合社殿についてー」『日本建築学会大会  
学術講演概要集(北陸)』2651-2652(1983)